

出汐町倉庫（旧広島陸軍被服支廠）について

1 財産の概要

- ・現存する4棟のうち1棟を国が、3棟を県が所有している。
- ・最大級の被爆建物であり、現存する最古級の鉄筋コンクリート造建築物

(1) 所在地 広島市南区出汐二丁目 827 番 35, 827 番 36, 827 番 37 (4 番 60 号)

(2) 規模 (単位：m, m²)

区分	第1～3号棟（県）	第4号棟（国）	合計
外寸(長さ×幅×高さ)	91.13×25.68×15.25	105.57×25.68×15.25	—
構造	鉄筋コンクリート造3階建 外壁はレンガ組積造		—
建築面積	2,340.09×3棟=7,020.27	2,684.29	9,704.56
延床面積	5,578.66×3棟=16,735.98	4,985.12	21,721.10
敷地面積※	12,469.88	4,716.20	17,186.08

※H30.3.13：出汐町倉庫敷地部分を827番35、827番36、827番37に分筆した際の座標測量成果。

2 沿革等

年	月	摘要
大正 2	1913 8	竣工 陸軍被服支廠
昭和 20	1945 8	被爆 被爆者の臨時救護所として使用
昭和 21	1946	広島高等師範学校（現在の広島大学教育学部）として使用
昭和 27	1952 3	国立広島大学整備のため、県立広島工業高等学校（千田町）及び県立広島商業高等学校（江波）との交換により、旧被服支廠の内3棟を大蔵省から取得し、県立広島工業高校の校舎の一部として使用。
昭和 31	1956	県教委から財産管理課に所属換え。日本通運に貸付け（～H7年3月）
平成 6	1994 2	広島市が被爆建物として登録
平成 7	1995 10	ひろしま国体局に、2号棟1階の一部を使用承認（～H9年3月）

3 主な利活用検討状況

年	月	摘要
平成 7	1995 9	瀬戸内海文化博物館（仮称）構想策定会議
平成 9	1997	3 博物館のあるべき姿について「瀬戸内海文化博物館（仮称）のあり方」としてまとめる。
		10 「瀬戸内海文化博物館（仮称）」事業については、財政健全化計画策定により進捗調整を行う事業と位置付けられ、内部的に休止することが決定
平成 12	2000 9	エルミタージュ美術館分館誘致の候補地として検討
平成 18	2006 9	知事が議会で「エルミタージュ美術館分館」誘致構想見送り表明
平成 23	2011 4	松井広島市長が、出汐町倉庫及び広島大学旧理学部1号棟を候補地とした折鶴の長期保存・展示施設「折り鶴ミュージアム（仮称）」を整備しないことを表明
平成 30	2018 1	耐震性能等調査により、「震度6強の地震で倒壊又は崩壊する危険性が高い」との調査結果が得られ、耐震改修には約12～33億円かかるとの試算結果が出た。
平成 31	2019 2	利活用の目途が立たないため、耐震改修は見送ることとし、1号棟について4億円程度を目途に保存改修案を作成。
令和元		県所有の3棟全体についての保存の考え方を整理した上で保存に着手すべきであるとの意見を踏まえ、整理・検討中。 令和元年度は、ブロック塀の撤去等の安全対策及び西側壁面調査のみ実施。

4 見学申込件数・人数

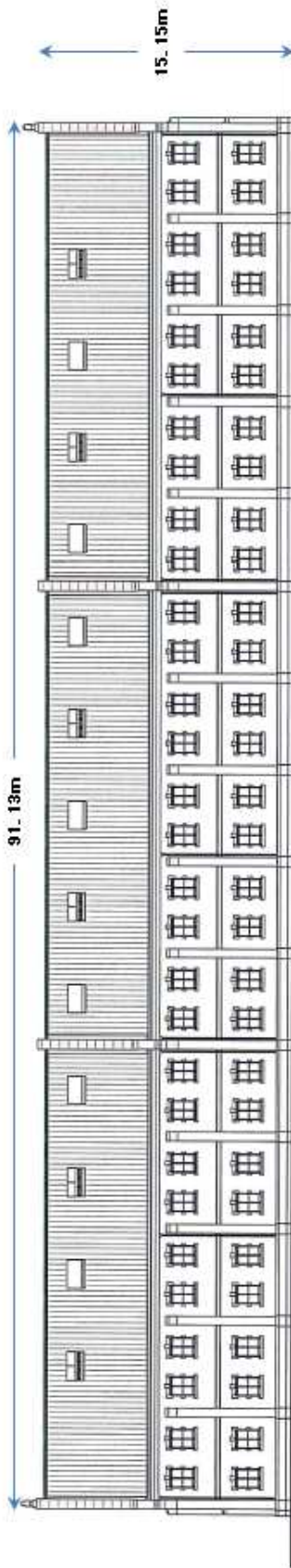
年度	26	27	28	29	30	31/元 (4/1～11/30)
件数	30件	41件	36件	35件	30件	27件
人数	745人	848人	960人	1,102人	795人	872人





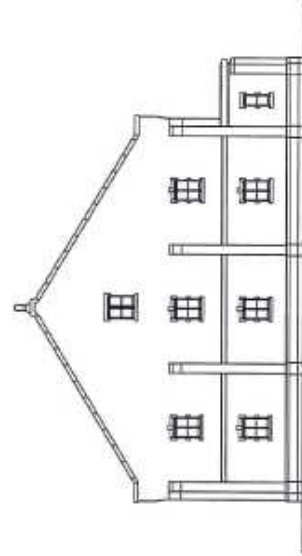
東側

91.13m

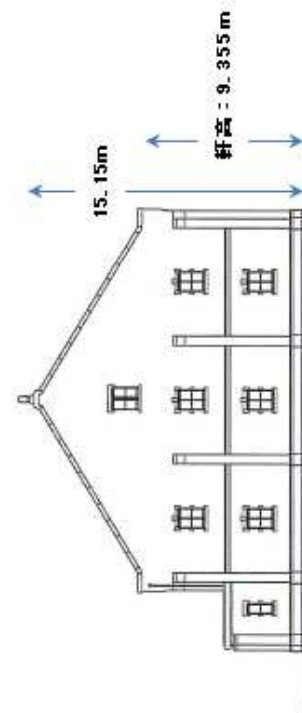


15.15m

西側



南側



15.15m

軒高：9.355m

北側

25.68m

市道幅：4m

